

数学科経営

1 研究主題

数学的な考え方を身に付け、やる気をもって学ぶ生徒の育成

2 主題設定の理由

数学科において主体的に学ぶ意欲を高める方法としては、まず第一に「わかる」という実感をもたせることが考えられる。できる、という自信が次に学ぶ意欲となる。第2としては、数学という教科に興味や関心、必要性や有用性を感じることができるようになることである。数学が単に、計算や求積、グラフ書きの道具ばかりでなく、自分たちの生活に密着した学問であることが意識できれば数学に対する意欲は高まるものと思われる。そのためには、単に知識や技能に偏ることなく数学的な考え方に重きを置いた指導が必要となる。以上のことから本年度は、数学に対する関心・意欲、思考に重点を置いた指導を目指すために本主題を設定した。

3 経営の重点と具体的施策

(1) 平成19年度の成果と課題から

- ① よりきめ細かな指導のために、生徒が課題の難易度や興味・関心でコースを選択できるTTの指導形態の工夫をする。
 - ・習熟度別に2コースに分けた1C2Tの導入。
 - ・コースごとに実態に合わせたシート作りの工夫。
- ② 基礎・基本の定着のための取り組み。
 - ・単元ごとのまとめテストとその振り返りを行い、生徒が自分の学びを評価し、学び直しをする機会を作る。
 - ・FTの時間を利用した、ドリル学習の実施。
- ③ お互いに認め合い、高めあえる発表や練り合いの場の工夫。
 - ・授業時間内に教師が意図的に考えを深めあえる場を設定し、それを発表する場面を作る。
 - ・クリティカルリーディングを意識した課題の設定。
- ④ 読解力向上に役立つ教材や学習活動の積極的な利用。
 - ・テキストを読み取ったり、自分の考えを述べたり書いたりしなければならない問題をテストをはじめとして授業に中で扱う。

(2) 数学を「活用する」力を付ける指導の工夫について

来年度の新指導要領の導入に向けて、数学を活用する能力を育成する指導のあり方を工夫する必要がある。そのためには、

- ・身近な題材を取り入れた課題の開発
- ・数学が課題解決のために役立つ、という実感がもてる授業の展開の工夫
- ・生徒が、できた、解けたという達成感がもてる課題の提示と評価の工夫

を研究していきたい。